

文化芸術交流

© Arts and Cultural Exchange



日本文化を世界へ向けて発信!

文化人や芸術家にとどまらない市民レベルをも含めた人物交流に加え造形美術、舞台芸術、映像メディア、出版等広い分野において日本文化を世界中に紹介しています。文化の担い手の多様化を反映したその活動は伝統芸術から現代アートまで実に多岐にわたり国境を越えた深い文化理解や真の国際交流として結実しています。

舞台芸術は子どもたちに何ができるのか

沖縄市で開催された「2007 国際児童・青少年演劇フェスティバルおきなわ(キジムナーフェスタ)」にて、ジャパンファウンデーションは同フェスティバル実行委員会とともに、海外の児童青少年演劇専門家を招へいし、国際シンポジウムを開催しました(7月27日、28日)。

国際シンポジウムⅠ「児童青少年演劇と教育～子どもたちに演劇との出会いを」では、ドイツ、イギリス、ロシア、アメリカ、韓国からパネリストを招き、貧困・暴力・家庭崩壊等さまざまな課題に直面している現代社会において、子どもたちが演劇と出会う意味は何かを議論しました。

また国際シンポジウムⅡ「紛争地域の子どもたち～児童演劇はどんな仕事をしているか」では、北アイルランド、クロアチア、パレスチナ、ヨルダン、イラク、ザンビアといった、世界の紛争地域で子どものための舞台芸術活動をくりひろげているアーティストをパネリストに迎え、舞台芸術は子どもたちに何ができるのか、平和な世界を取り戻すための力があるのかを議論しました。

双方のシンポジウムとも会場が一杯になる盛況ぶりでしたが、特に紛争地域を扱ったシンポジウムⅡは複数のメディアに取り上げられ、高い関心を集めました。また、シンポジウムⅡの内容は、ジャパンファウンデーションの隔月刊誌『をちこち』第20号(2007年12月)でも報告しました。



中東のデジタルアニメ人材育成のための専門家派遣

日本紹介のための専門家派遣事業

技術・表現・ビジネス面と、総合的にアニメ制作を指導

2008年1月から2月にかけて、日本が誇る若手アニメ監督・新海誠氏、株式会社コミックス・ウェーブ・フィルム代表取締役の川口典孝氏、同取締役・プロデューサーの角南一城氏によるアニメ制作ワークショップを、ヨルダン、カタール、シリアの3カ国において実施しました。アニメーターを目指す中東の若者たち各10～25名を対象に、1カ国あたり1～2週間に亘り、絵コンテ、背景美術、コンポジット等のアニメ制作過程を技術面と表現面の双方から、また現地プロデューサー向けにはビジネス面まで含めて教授する企画です。ワークショップを通じて、アニメ制作者になる夢を抱く中東の青年たちは、憧れの日本人アニメ監督の指導の下、それぞれにオリジナル・ストーリーを考え、現地ロケハンにより普段見慣れたシーンを背景に仕立て、そこに動画を組み合わせて、1分程度のビデオ・コンテを作る試みに挑戦しました。また、広く一般向けに、また学生・児童向けに各地で同時開催した講演会やアニメ上映会も毎回大好評を博し、かつてジャパンファウンデーションの支援を受けて日本語を学んだ現地研究者たちがチームを組んで今回新たにアラビア語字幕を付けた新海作品は、中東の人々に熱狂的に迎えられました。

中東にクリエイターの卵が誕生

日本への信頼度アップにつながる事業に

多くの国で人口の半数以上が20歳以下という中東はポップ・カルチャーの一大市場で、単に鑑賞するのみでは飽き足らず、自ら表現するクリエイターになりたいという若者も出てきています。また、いずれの国でも青少年は日本のアニメに夢中で、それが日本への親近感や信頼感の醸成にも繋がっているともいえます。そうした状況の中で依然生まれ出てこない中東独自の作品を制作できる人材を育て、現地のデジタル・コンテンツ産業を芸術面と技術面の双方から支援するため、現在世界が認めている日本の優れたアニメ制作力を最大限活かし、文化における日本－中東協力を試みたのが本事業です。発案者の在ヨルダン日本大使館ほか各国日本大使館、現地の映画協会やIT専門学校、大学等の協力を得、より効率的・効果的に、日本の持つアニメ制作の高い技術を伝達し、日本的な表現方法や日本ならではのアニメ制作方法を紹介することを目指しました。参加者からは、「新海監督の美しく切なく懐かしい作風と、最先端

技術を駆使する技法のギャップに感動した」、「監督、プロデューサーたちの穏やかで若々しく真摯な人柄にも大いに魅了された」、「非常に若くして、ごく限られた少数人数ですばらしい作品を制作し、あっという間に世界に名を馳せた新海監督とそれを支えるやはり若いプロデューサーの姿は、自分の目標として大いに刺激となった」といった感想を得ました。

ポップ・カルチャーの創造を支援

中東のような地域に対するポップ・カルチャー紹介はさほど容易でなく、適切に文化を翻訳あるいは解説できる人物が必要な場合が多々あります。まとまった日数を日本人監督らとともに過ごし、さまざまなことを語り合えた今回のワークショップは、アニメ制作者のみならず、こうした文化交流の媒介者の育成上、意義のある事業となりました。

海外から日本に対して寄せられる漫画・アニメ等ポップ・カルチャー関係事業のニーズは高く、ジャパンファウンデーションは2007年度、ロシア、スペイン、アラブ首長国連邦等に専門家を派遣し、ワークショップ等を開催。書物やTVだけでは伝わらない漫画・アニメの文化的背景や歴史を海外へ伝えていきます。

参考：『をちこち』23号に川口典孝氏、角南一城氏による報告『予想を超えたアニメへの情熱』が掲載されています。



ヨルダンにおけるワークショップ。新海監督は参加者一人一人のもとを回って、背景美術の制作方法を手ずから説明した©山下ススム



カタール大学でアニメーション制作について解説する新海監督。講義後も学生に囲まれて多くの質問を受けた©角南一城

ケニアの漫画家ムワムペムブワ氏を招へい 海外の文化人招へい事業

アフリカで300万人を超える読者を持つ「ネーション」紙をはじめ世界の紙誌上で歯に衣着せぬ政治批評を繰り広げるケニアの一コマ風刺漫画家、ゴドフリー・ムワムペムブワ(ガド)氏が、8月、ジャパンファウンデーションの招へいにより初めて来日しました。日本では、漫画・アニメ制作に関する情報収集に励み、漫画家を志す若者たちと語り合い、寺社、学校、武道場、芸能舞台、繁華街、市場、工場等を精力的に巡って、日本のさまざまな姿を見聞し、「多様な文化と豊かな歴史、そして漫画やアニメが持つ『日本』を表現する力に衝撃を受けた」といいます。加えて、15日間の日本滞在の最後に行った講演会では、報道の自由が制限されている中、アフリカの民主化の過程で漫画はどのような役割を果たしてきたか、自身の作品を紹介しながら解説し、聴衆との懇親を深めました。また、ケニア帰国後の2月にはナイロビにおいて新作11点を集めた「ガドの見た日本」展が開催され、ガド氏のトークに900名以上のケニアの若者たちが熱心に耳を傾けました。

ガド氏は、漫画という手法によりアフリカ内部の問題に世界の目を惹くことで、笑いを通じてアフリカと国際社会とを

繋いでいます。そのガド氏が最もショックだったのは、日本人がアフリカを知らないこと。今回の日本滞在経験を生かして「動物や貧困だけではないアフリカを世界に知ってもらうため、アフリカを舞台にし



漫画家ゴドフリー・ムワムペムブワ氏

た政治コミックを描きたい。日本の協力を得ながら故郷の伝説を元にアニメも作りたい」という夢を温め続けています。



©GADO

青少年問題関係者グループを韓国に派遣

日韓両国が共有する社会的課題を中心としたNPO／市民団体間の交流強化を目指して2006年度に韓国の青少年教育関係者のグループを招へいしましたが、そのさらなる展開を目的として、2008年3月3日～8日の間、日本から6名の若者自立支援NPO実務者を韓国(ソウル)に派遣しました。

現地では、現場視察や意見交換に加え、日韓市民団体関係者約70名を対象に、経済学者ウ・ソクフン氏(韓国ベストセラー『88万ウォン世代』著者)による講演会、日本側参加者による活動紹介プレゼンテーションを実施し、さらに3つのテーマに分かれた分科会(参加人数：各15～20名)等も開催することにより、相互理解を促進し、日韓文化交流5年計画の事業「日韓両国のNPO交流強化」の達成に寄与し、大いに成果をあげました。

また、各種マスコミにも取り上げられ、日本と韓国のNPO／市民団体を主体とした特色ある交流の一例として大いに注目されました。

事業実施後、基金主催、派遣者主催の報告会をそれぞれ実施しました。



白手(=ニート)放送局ラジオ番組出演



ソウル市内青少年職業体験センター(ハジャセンター)訪問

美麗新世界:当代日本視覚文化 海外展:中国

2007「日中文化・スポーツ交流年」を記念して開催された「美麗新世界：当代日本視覚文化」展では、現代美術から、メディアアート、建築、ファッション、漫画やアニメーション等のポピュラーカルチャーまで、34名のクリエイターの代表作を紹介しました。全体を「美しきリアルワールド」、「ニューメディアワールド」、「世界の終焉と未来世界」の3つのセクションに分け、「美しさ」や「新世界」という言葉から多層的に広がる表現を通じて、日本の現代社会を多角的に検証する内容で、798大山子芸術区の3会場(北京)と、広東美術館(広州)で実施され、それぞれ23日間の会期で計7万名の入場者がありました。また北京では現在の日本社会への理解を目的に、若い層をターゲットに中央美術学院でシンポジウムを、広州では子どもたちへの教育プログラムやワークショップをあわせて実施しました。

本展は、中国において網羅的に最新の日本現代美術を見せるはじめての機会となっており、美術関係者に高い評価を受けました。また、日本のサブカルチャーに親しんで育った10代から20代初めのネット世代の若者層にとっては、身近

展覧会カタログ



に日本文化に接する絶好の機会となりました。

広州・広東美術館での展示風景



第52回ヴェネチア・ビエンナーレ国際美術展 日本館出展 国際美術展への参加

1895年の創設以来100年以上の歴史を持ち、世界各地で行われている国際美術展の元祖と言われる本展が、2007年6月10日から11月21日まで開催されました。総合ディレクターによる企画展、国別参加展等さまざまな催しがヴェネチアの島中で繰り広げられました。

ジャパンファウンデーションは、1976年から日本を代表して日本館の展示を実施しています。コミッショナー・港千尋氏(多摩美術大学教授)とアーティスト・岡部昌生氏(札幌大谷大学教授)が「私たちの過去に、未来はあるのかーThe Dark Face of the Light」をテーマに、フロッターージュ(擦り取り)作品を中心に全壁面を約1,100点で覆い尽くし、床には旧国鉄駅のプラットホームの縁石を配置しました。20万名を超える入場者があり、港氏は「フロッターージュの対象である字品は、かつて広島軍港駅で、日清戦争以降太平洋戦争終結まで、おびただしい量の物資と人間がアジアへ運ばれた場所であると同時に、原爆の被災地でもある。岡部はこの駅のプラットホームの縁石を擦り続け総数4,000点におよぶ記録を残した。(中略)そこには過去とどう向きあうか探している現代の人間にとって、何らかのヒントがある



日本館でフロッターージュを体験する来館者



記者発表の様子。
左:港千尋氏、右:
岡部昌生氏

ようにも思われる」と述べていますが、来館者からは、powerful、peaceful、thank you等の声が聞かれました。

ヴェネチアではフロッターージュやワークショップも行い、加えて、ローマ日本文化会館でも展覧会を開催、アートで町と人を結ぶ活動がさらに広がりました。

消失点—日本の現代美術 海外展:インド

2007年日印交流年を記念して、(1)ニューデリー国立近代美術館での展覧会、(2)インド各地での滞在制作、(3)ムンバイの民間ギャラリーでの成果発表・展覧会という3つの要素から構成される美術交流事業を実施しました。ニューデリーでは、線遠近法でイメージを可視化するために用いられてきた「消失点」をモチーフに、視覚表現に取り組む10名の作家たちの活動を紹介する展覧会を開催。ほぼ同時期に、インドのNPO、大学、作家たちの協力を得て、4組5名の日本人作家をニューデリー、ムンバイ、アーメダバード、シャンティニケタンに派遣しました。そして、作家たちがインドの人々と交流しながら各々のテーマを充実させ、現地制作した作品と、ニューデリー展参加作家の一部の作品から構成される成果発表の展覧会を、ムンバイのプロジェクト88、チャッタージー&ルール・ギャラリーで開催しました。今後の日印間の文化的対話に弾みをつけた展覧会となりました。

キュレーター：金井直（信州大学准教授）

出品作家：平川典俊、石原友明、木村崇人、小金沢健人、三輪美津子、村岡三郎、村瀬恭子、中川幸夫、ノーフアヤ・リュストラ（中野良寿、安原雅之、祐成政徳、田中敦子、山口啓介、寄神くり（アルファベット順）



『Invention and Sinfonia,BA』
ニューデリー国立近代美術館エントランスホール©祐成行徳

『演じる女たち—ギリシャ悲劇からの断章』3部作 国際舞台芸術共同制作

90年代からアジア各国と続けてきた共同制作は、戦略的に地域を移し、その都度方法論を大胆に変えることで、世界を認識する手段として演劇に何ができるかを問い続けてきました。今回はインド、イラン、ウズベキスタン、日本の共同作業で、3名の演出家と、ギリシャ悲劇の女性を題材に現代を照射することをテーマに作業しました。1部はウズベキスタンのオプリアクリ・ホジャクリ氏演出で、夫の裏切りへの復讐に我が子を殺したメデアの行為を社会秩序に対する異議として描いた「メデア」、2部はイランのモハメド・アゲバティ氏の演出で、息子オイディプスと交わったイオカステの行為を運命（神の意思）に抗う意識的な選択と解釈した「イオカステ」、3部はインドのアビラシュ・ピライ氏の演出で、トロイア戦争を石油をめぐる現代のポリティクスと重ね合わせて描いた「ヘレネ」。日本からは、舞台美術に現代アートの中山ダイスケ氏、作曲・演奏に国広和毅氏等が参加。1年半の制作期間を経て、完成作品は2007年1月にインドのニューデリー（第9回ナショナル・シアター・フェスティバル）、10月に東京（Bunkamuraシアターコクーン）とソウル（第7回ソウル・パフォーマンス・フェスティバル）で



第1部「メデア」



第2部「イオカステ」



第3部「ヘレネ」©古屋均（3枚とも）

上演されました。各パートは参加国でも上演され、今後も海外の国際演劇祭で上演予定です。

江戸糸操り人形「結城座」公演 海外公演

「日伯交流年(日本人ブラジル移住100周年)」の開幕を飾る大型事業として、2008年2月10日～3月2日、約370年の歴史を持つ江戸糸操り人形劇団「結城座」によるブラジル国内4都市(サントス、リオデジャネイロ、ブラジリア、サンパウロ)ツアーを行いました。

全9回の公演では、古典作品『綱鑑』と『新版歌祭文 野崎村の段』を上演。現地の専門家やサンパウロ日本人学校の小・中学生を対象としたワークショップ(全4回)も実施しました。公演チケットが早々に完売となる中で、劇場に鑑賞を求め人が殺到し、長蛇の列を作るほどの盛況ぶりでした。

冒頭に人形解説を導入したり、通常は下ろしたままの幕

を上げて人形遣いが足場の上から人形を巧みに操る様子を公開したりすると、海外公演ならではの演出も観客の好評を博し、現地のTV・新聞等に取り上げられました。



© 楮佐古晶章(上・下とも)

第1回国際漫画賞 受賞者の招へい

海外で漫画文化の普及活動に貢献する漫画作家を顕彰するため、2007年5月に国際漫画賞が創設されました。ジャパンファウンデーションは2007年7月1日から10日まで、第1回国際漫画賞(最優秀作品)の受賞者である李志清氏(香港)と、第1回国際漫画賞奨励賞の受賞者であるマデリン・ロスカ氏(オーストラリア)、ベン氏(マレーシア)、カイ氏(香港)を日本に招へいしました。

4名の受賞者は7月2日に行われた授賞式で、グラフィックデザイナー・佐藤卓氏が手がけた、漫画の吹き出しの形をしたトロフィを授与されました。その後も東京と京都で、出版社や美術館、アニメの制作会社や漫画家のスタジオ等

を訪問し、日本の漫画やアニメに関する視察や懇談を行いました。『をちこち』19号に報告が掲載されています。



マンガ学部を日本で初めて創設した京都精華大学を訪問

韓国における 第1回 国際交流基金 ポラナビ著作／翻訳賞 出版分野の支援

韓国の一般市民が日本の文化と社会に対する理解を深めるのに役立つ良書の普及を促進するため、ジャパンファウンデーションでは「国際交流基金ポラナビ著作／翻訳賞」を創設しました。この賞は、今後一層の活躍が期待される韓国の優れた若手・中堅の作家および翻訳者等を顕彰することを目的としており、その第1回授賞式を2007年3月5日ソウル日本文化センターにて行いました。初年度は、「エッセイ・評論・伝記等」の分野における著作の中から、キム・ジュニャン氏とその作品『イメージの帝国：日本列島上のアニメーション』(ハンナレ出版社、2006年)が受賞しました。日本のアニメーションの分析・批評を通じ、日本社会および日本近代史において日本のアニメーションが持つ意味を

※ポラナビとは、ジャパンファウンデーションのシンボルマークである「紫の蝶」を表す韓国語です。

第1回ポラナビ賞
受賞作品



第1回ポラナビ賞授賞式

考察した作品です。今後も「小説(韓国語訳)」、「学術書(著作)」、「ノンフィクション(韓国語訳)」の順に分野を設定し、2010年度まで毎年実施する予定です。

文化芸術交流事業概観

①日本紹介のための専門家派遣事業

アニメ、食、武道等日本の文化18分野の専門家60名を世界各地に派遣して、講演、デモンストレーション、ワークショップ等を実施しました(44カ国65都市、24件)。また、54件の助成を行いました。

②海外の文化人招へい事業

文化の諸分野において大きな影響力を持つ作家、アーティスト、学者等29名を23カ国から招へいし、日本の実情視察、関係専門家等との意見交換を行いました。

③文化芸術分野における国際協力

デジタル・アニメ制作や日本画制作における人材育成、文化財・歴史記録制作、遺跡保存・修復等に協力するため、6カ国に専門家派遣等4件の事業を実施しました。このほか、8件の助成を行いました。

④市民青少年交流

青少年問題に取り組む専門家グループを韓国へ派遣、また、文化交流の関係者をベトナムから招へいする等、市民青少年交流事業を主催で2件実施。また、国内の団体が実施または参加する、市民交流事業117件に助成しました。

⑤中学高校教員交流

52カ国から196名の中学・高校の教員を招へいし、日本各地で学校訪問、文化施設等の視察や交流を行いました。

⑥異文化理解ワークショップ

日本における異文化理解促進のための公開講座等を12件実施しました。

⑦開高健記念アジア作家講演会シリーズ

故開高健氏の遺族からの寄付金により、毎年アジアの作家を招へいし講演会を実施しています。2007年は中国の作家、李銳(リー・ルエイ)氏の講演会を国内4カ所(大阪、東京、仙台、函館)で行いました。

⑧国際美術展への参加

第52回ヴェネチア・ビエンナーレ国際美術展に参加しました。

⑨海外展

海外や日本の美術館等との共催で、「美麗新世界」展(中国)「消失点ー日本の現代美術」展(インド)、「アジアのキュビズム」展(フランス)、および「わざの美」展(英国)の計4件の企画展を実施しました。

また、「現代日本建築」、「現代日本デザイン100選」、「日本の新世代アーティスト」、武道の歴史と現在を紹介する「武道の精神」等、計18の展示セットを海外63カ国に巡回し、122件の展覧会を開催しました。

さらに、日本の美術・文化を紹介する展覧会40件に対して助成を行いました。

⑩国内展

『藤森建築と路上観察 第10回ヴェネチア・ビエンナーレ建築展帰国展』(東京)を実施するとともに、これまで日本で紹介される機会の少なかった海外の優れた美術を紹介する展覧会10件に対して助成を行いました。

⑪造形美術情報交流

アジアの美術館のネットワーク構築を目的とした『アジア次世代美術館キュレーター会議』第3回会議をフィリピンで開催しました。また、日伯交流年を記念してサンパウロで開催される「江戸の工芸」展への協力を行いました。

⑫海外公演

ジャズ(塩谷哲グループ/東南アジア3カ国/日タイ修好120周年、日マレーシア国交樹立50周年)、津軽三味線(福居典美・福居一大/アジア2カ国/日印交流年、日インドネシア国交樹立50周年)、コンテンポラリーダンス(BATIK/欧州4カ国)、江戸糸操り人形(結城座/ブラジル/日伯交流年)等、のべ43カ国で22件の公演事業を実施しました。また舞台芸術や芸能の海外公演を行う日本の公演団体に対する経費の一部助成を89件(のべ154カ国)実施しました。

さらに、日本の優れた舞台芸術作品を紹介する米国の非営利団体を対象に、公募により助成を16件(PAJ(パフォーミング・アーツ・ジャパン)北米)、欧州に本拠を置くフェスティバル、プレゼンターを対象に11件(PAJ欧州)実施しました。

⑬国内公演

日本国内においてあまり知られていない国・地域の舞台芸術・芸能を、日本に紹介しています。アジア、中南米、中東等の舞台芸術訪日公演11件の助成を実施しました。また日本・インド・イラン・ウズベキスタンの舞台芸術家による共同制作等3件の共同制作公演を実施しました。

⑭舞台芸術情報交流

国内外の舞台芸術団体、プレゼンター、フェスティバル実施団体、劇場、地方公共団体間の情報交流促進を図るため、「東京芸術見本市2008」等、17件の情報交流事業を実施または支援しました。また、日本の舞台芸術情報を和文・英文で発信するウェブサイト「Performing Arts Network Japan」(<http://www.performingarts.jp/>)を運営したほか、英文ガイドブック『THEATER IN JAPAN』を発行しました。

⑮出版・翻訳(助成)

人文、社会科学および芸術分野の日本語で書かれた優れた図書の外国語への翻訳および外国語で書かれた図書の出版について助成しました(20カ国、56件)。

16 国際図書展参加

日本の出版文化の紹介と対日理解促進のため、海外で開催された12の国際図書展に参加しました。

17 テレビ番組交流促進

日本のテレビ番組の海外における放映を促進するため、海外の放送局に番組を提供しました。28カ国、28件実施しました。

18 映画・テレビ番組制作

海外における日本理解を促進するため、日本に関する映画およびテレビ番組等の制作費助成を、10件実施しました。

19 海外日本映画祭

海外で行われる日本映画上映事業への協力を行いました(55件主催、50件助成)。

20 国内映画祭

アジア・中東の映画を紹介する映画祭を実施し、関係映画人の招へい等も併せて実施。また、アジア映画理解講座および英語字幕付き日本映画上映会を実施しました(6件主催、9件助成)。

21 映像・出版情報交流

季刊誌 Japanese Book News を刊行。また、New Cinema from Japan をユニジャパンと共同で発行しました。

**22 国際交流基金ボランティア(文化交流企画運営補助)**

諸外国における日本との国際文化交流のニーズと、日本国民のボランティアのニーズを基金が仲介し、日本に関する総合的文化事業運営を実施している海外の団体で補助業務を行うボランティアを公募・人選のうえ、派遣しました。

2007年度文化人短期招へい一覧

	国名	時期	被招へい者	現職
アジア・大洋州	韓国	2008.3.2-2008.3.12	KIM Hoon (キム・フン)	作家
	モンゴル	2007.10.3-2007.10.17	RINCHIN Ganbat (リンチン・ガンバト)	作家
	インドネシア	2008.3.4-2008.3.16	Amuna KUSUMO (アムナ・クスモ)	クローラ財団ディレクター
	マレーシア	2007.10.2-2007.10.16	Roslisham BIN ISMAIL (ロスリシャム・ビン・イズマイル)	現代美術家
	タイ	2007.8.20-2007.8.26	Arak SUNGHITAKUN (アーラック・サンヒタクン)	タイ文化省芸術局長
	フィリピン	2007.5.18-2007.6.1	YAMAMOTO Michiko (ヤマモト・ミチコ)	ufoピクチャーズプロデューサー、脚本家
	インド	2008.3.1-2008.3.9	Narendra JADHAV (ナレンダラ・ジャダヴ)	ブーネ大学副学長
	オーストラリア	2007.12.5-2007.12.18 2007.11.23-2007.12.2	John Maxwell COETZEE (ジョン・マクスウェル・クッツェー) Jeanette HACKETT (ジャネット・ハケット)	作家、アデレード大学名誉研究員 カーティン工科大学副理事長兼学長
米州	カナダ	2008.1.22-2008.2.2	Chris ROBINSON (クリス・ロビンソン)	オタワ・アニメーション国際フェスティバル芸術監督
中南米	ドミニカ共和国	2007.10.2-2007.10.21	Fernando Enrique UREÑA RIB (フェルナンド・エンリケ・ウレニャ・リブ)	画家、彫刻家、作家
	ホンジュラス	2007.11.1-2007.11.15	Dario Aquiles ERAQUE (ダリオ・アキレス・エウラケ)	ホンジュラス国立人類学歴史学研究所所長
	グアテマラ	2007.10.23-2007.11.4	Rodrigo REY ROSA (ロドリゴ・レイ・ロサ)	作家
	ブラジル	2007.11.11-2007.11.19	Ana Paula PADRAO MUNDELL (アナ・パウラ・パドロン・ムンデル)	ブラジル・テレビ・システム・アンカー兼編集長
		2007.12.1-2007.12.15	Marcelo CARNEIRO DA CUHNA (マルセーロ・カルネイロ・ダ・クーニャ)	作家
	ベネズエラ	2008.3.20-2008.3.25	José Antonio ABREU (ホセ・アントニオ・アブレウ)	ベネズエラ青少年児童交響楽団代表
	ペルー	2008.3.3-2008.3.14	Ricardo Martin TANAKA GONDO (リカルド・マーティン・タナカ・ゴンドウ)	ペルー問題研究所前所長
コロンビア	2008.2.13-2008.2.27	Diana URIBE (ディアナ・ウリベ)	歴史家、ジャーナリスト	
欧州	ドイツ	2007.10.29-2007.11.11	Doris KRYSTOF (ドリス・クリストフ)	デュッセルドルフK21ノルトライン・ウェストファーレン州立美術館学芸員
	フランス	2008.2.23-2008.3.2	Michael CHASE (マイケル・チェイズ)	パリ市立劇場総務代表
	ベラルーシ	2007.10.21-2007.10.27	Raman MATULSKI (ロマン・モトゥリスキー)	ベラルーシ国立中央図書館館長
	クロアチア	2008.2.21-2008.3.6	Zoran MARIC (ゾラン・マリッチ)	NPOマルチ・カルチャー所属コンサート・プロモーター
	トルコ	2008.1.15-2008.1.25	Bagci HUSEYIN (バージュ・フセイン)	中東工科大学経済行政学部国際関係学科
中東・アフリカ	ケニア	2007.7.1-2007.7.15	Godfrey MWAMPEMBWA (ゴドフリー・ムワムペムブワ)	ネーション・メディア・グループ所属政治風刺漫画家
	タンザニア	2007.9.1-2007.9.17	Hermas J.M. MWANSOKO (ヘルマス・ムワンソコ)	タンザニア情報・文化・スポーツ省文化局長
アジア・大洋州	オーストラリア インド フィリピン インドネシア	2007.11.15-2007.11.29	アジア大洋州映画祭関係者グループ(4名) David Andrew Cowper ROSE (デイヴィッド・アンドリュー・カウパー・ローズ) Maria Shai HEREDIA (マリア・シャイ・ヘレディア) Joselito Villanueva ACOSTA (ホセリート・ヴィリャヌエヴァ・アコスタ) Lisabona RAHMAN (リザボナ・ラーマン)	ブリスベン国際映画祭フェスティバル・ディレクター エクスペリメンタ国際実験映画祭ディレクター シネマニラ国際映画祭国際部門プログラマー インドネシア芸術評議会キネフォーラム・プログラム・マネージャー